

内水面漁業総合対策研究Ⅲ (内水面魚病総合対策事業)

前野幸二, 柳宗悦

【目 的】

内水面養殖業における魚病の多発化、複雑化に対応した魚病、防疫知識の普及、啓発を図るとともに、水産用医薬品の適正使用の指導など総合的な対策を行い、県内の内水面養殖業者の経営安定と養殖魚の食品としての安全性を確保することを目的とする。

【方 法】

養殖業者等からの検査依頼に対し、症状観察、寄生虫、細菌、ウイルス検査、薬剤感受性試験を行い、結果報告及び防疫に関する指導を行った。また、天然河川で採捕されたアユの出荷前の健苗性確認（冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症）及びコイのコイヘルペスウイルス病（KHV病）蔓延防止に向けたPCR検査を行った。さらに、防疫対策として、養殖業者、漁業者又は漁協へ、巡回指導により魚病被害の軽減を図るとともに、各種会議に出席し、魚病情報、研究内容等の情報交換を行った。

【結 果】

1) 魚病診断結果

72件（ウナギ、コイ、アユ等 健苗性確認も含む）（表1）

ウナギが約74%を占め、中でも診断件数として特に多かったのが、ウイルス性血管内皮壊死症（鰓うっ血症）、シュードダクチロギルス症、パラコロ病の3種であった。（表2）

表1 平成24年度 魚種別・月別魚病診断件数（件）

魚種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合 (%)
ウナギ	7	6	3	7	4	3	7	1	4	3	3	5	53	73.6
コイ	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	6.9
アユ	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	10	13.9
ニジマス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.4
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	4.2
計	13	9	4	7	5	3	7	2	5	4	3	9	72	100

表2 魚種別、魚病別の診断件数(件)(同時依頼分に複数の要因があった場合は各要因毎に計数)

魚種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ウナギ													
鰓うっ血症	2	1	2	3	2	2	4		3	2	3	2	26
鰓うっ血症+シュードダクチロギルス症	1	1		2		2	4		2	1		1	14
鰓うっ血症+カラムナリス症	1												1
鰓うっ血症+ピブリオ病		1		1	1				2				5
鰓うっ血症+ピブリオ病+シュードダクチロギルス症									1				1
鰓うっ血症+パラコロ病+ピブリオ病									1				1
シュードダクチロギルス症	2	1	2	1		1	3	1	3	1	2	3	20
シュードダクチロギルス症+ピブリオ病				1									1
シュードダクチロギルス症+白点病			1										1
シュードダクチロギルス症+白点病+鰓うっ血症			1										1
パラコロ病	1		1		1		1						4
パラコロ病+シュードダクチロギルス症			2		2	2		2		1		1	10
パラコロ病+鰓うっ血症					2		2		3	1			8
パラコロ病+ピブリオ病		1							1			1	3
パラコロ病+鰓うっ血症+シュードダクチロギルス症	1				1	2	2	1	1				8
点状充血症+シュードダクチロギルス症						1							1
パラコロ病+点状充血症							1						1
ピブリオ病		2		2								1	5
ピブリオ病+白点病												1	1
ピブリオ病+白点病+トリコジナ症												1	1
カラムナリス症													0
白点病	1	1											2
点状充血症				1	1		1						3
滑走細菌症												1	1
滑走細菌症+ピブリオ病												1	1
不明	3	3	2	3	1		4		1	1	2	4	24
コイ													
カラムナリス症													0
眠り病	1												1
白点病								1					1
不明		2											2
KHV検査件数		1	1										2
(うち陽性件数)		0	1										1
アユ													
カラムナリス症													0
真菌症													0
カラムナリス症+真菌症													0
イクタルリ検査件数	3	1										2	6
(うち陽性件数)	0	0										0	0
冷水病検査件数	2											2	4
(うち陽性件数)	0											0	0
不明													0
ニジマス													
カラムナリス症													0
ギロダクチルス症									1				1
不明									1				1
その他													
チョウ症													0
白点病													0
不明		1			1					1			3

※コイの診断数についてKHV検査が陰性でへい死原因が不明の場合、出荷検査でPCR陰性の場合「不明」にカウントしている。
 ※その他はフナ、オイカワ、モクズガニ。不明には河川事故を含む。

2) PCR検査

アユについては、エドワジエラ・イクタルリ感染症検査を6件、冷水病検査を4件実施し、いずれも陰性であった。また、コイについてはKHV病検査を2件実施し、うち1件は陽性が確認された。(表3)

なお、コイのKHV病については平成18年度より当センターで確定診断を実施しており、その診断件数の推移を図1に示した。

表3 平成24年度PCR検査結果

魚種	検査対象疾病	診断日	市町村等	河川・養殖場等	検査尾数	検査ロット数	PCR検査結果
アユ	エドワジエラ・イクタリ感染症	4月～翌3月	霧島市	日当天降川漁協	80	16	全て陰性
				松永漁協	20	4	全て陰性
				桜枝川漁協	18	4	全て陰性
検査回数 6回							
アユ	冷水病	4月～翌3月	霧島市		198	34	全て陰性
検査回数 4回							
ニシキゴイ	KHV病	H24.5.25	鹿屋市	個人池	2	2	全て陰性
コイ		H24.6.27		瀬筒池	5	5	1尾陽性
検査回数 2回							

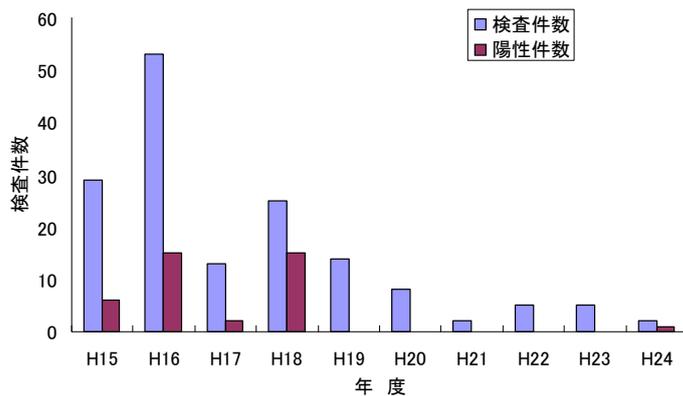


図1 KHV診断件数

3) 防疫対策巡回指導

本県におけるアユの主要生産地である天降川において、漁協より採捕及び出荷状況等を聴き取り、薬剤使用等、魚病被害の軽減に向けた指導を行った。

4) 魚病関係会議における情報交換

①九州・山口ブロック水産試験場長会「内水面分科会」への出席（2月 佐賀県）

シラスウナギ採捕状況、天降川アユ生態調査、台湾向け輸出ウナギの健康証明、カワウ調査結果について説明した。

②全国養殖衛生管理推進会議への出席（3月 東京都）

全国における魚病発生状況、防疫対策等の実施状況、今後の事業実施状況、予算等について情報交換を行った。

5) ウナギ台湾輸出に係る臨床検査、健康証明書発行

台湾輸出検疫条例の改正に伴い、台湾へ生きた水産物を輸出する際に都道府県が発行する健康証明書の添付が義務付けられ、うちウナギに関しては2g/尾 以上の場合のみ健康証明書の添付が必要とされている。

平成24年度は7件の健康証明書発行依頼に対して発行を行い、当該発行に係る総尾数は752,000尾、総重量は6,610kgであった。